
サイレントシザー

玖月あじさい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サイレントシザー

【コード】

N2904N

【作者名】

玖月あじさい

【あらすじ】

その子はとてもハサミの似合う女の子でした。ハサミの音っていいよね。そんな話。

その子はとてもハサミの似合う女の子でした。

子供用のちゃっちいではなく、少し手に余るような裁縫ハサミがとくに似合うのです。

家庭科の時間で、お手玉を作る時に同じ班になった。

シャキ、シャキ、シャキ、シャキ……

ハサミの刃を開閉するたびに響く音。それが僕はけっこう好きだった。しかも、今響いている音は今まで聞いたことのないほど美しく、澄んだ音だった。

なんて、綺麗な音。聞いているこっちも研ぎ澄まされる、ような

思わずハサミの方を見ると、彼女と目が合いました。

「どうか、した？」

羽佐さんでした。下の名前は知りません。

低い位置で二つくぐりをしたその髪型も、名字もどことなくハサミを連想させる人です。

「ハサミ、次貸してほしいな」

なんとなしにそう言いました。事実、僕も寸法を測り終えたのでハサミが欲しい時でした。

「うん、すぐ終わらせる」

また、あの心地よいハサミの音。シャキシヤキ、シヨキシヨキ。

お手玉用の布地は計四枚だったのですが、僕のはどれも切るための線を引き終わってしまったので手持無沙汰になってしまいました。だから、教室内を見回します。

だって目の前のハサミをじっと見つめるなんて不気味でしょ。

被服教室の中はいろんな音であふれている。

人の騒ぐ音、ハサミの音、椅子を引きずる音。エトセトラ、e t
c.....

やっぱり、羽佐さんのハサミの音が一番いい。

僕のお気に入り音の一つに追加。頭の中にブックマーク。音に菜
を挟みましょう。

「三島君、ハサミ使い終わったよ」

はい、と羽佐さんが持ち手をこちらに渡してくる。白い裁縫ハサ
ミを。

「ありがとう」

僕は受け取り、自分の布を切り始める。

シヨッキン、ジヨギジヨギ、ジヨキン。

うん、羽佐さんと同じように切れない。まっすぐでもなくて、歪
んでる。そして何より音が綺麗じゃない。

でも僕は家庭科の成績のために不快音の中で切り続けるしかなく
て。

ジヨギンジヨギン、ジヨッキン。

某ゲームのシザーマンのハサミならこんな布地も一発なんだろう
な、なんて思いつつ。

ジヨツギン。シヨギシヨギ、シヨキン。

「あ」

切れた。最後の一バサミだけ、美しく。

その余韻を楽しみたくて、僕は思わず一時停止。ああ美しきその
一瞬。

「どうしたの？」

邪魔者乱入、羽佐さんです。

「いや、けっこう歪んだなあ。」と

変人だと思われたくない、と取り繕う。一度変人の谷に落とされ
たら、這い上がるのは至難の業だ。

「あー、本当だ」

「羽佐さんののは綺麗だ」

そうかな、と彼女は笑った。彼女のお手玉製作は、縫い合わせる
ところまで進んでいる。

沈黙。

羽佐さんはまた黙々と縫い合わせる作業に戻り始めた。

僕も針と糸を用意する。針を糸に通す作業は最初から道具に頼る。
確か、糸通しってやつ。

それにしても沈黙するのは嫌いだ。何かしゃべらなくてはいけな
い気がしてくる。重い空気。あーいやだ。

「羽佐さんってさ」

ん？ と意識だけがこっちに向けられる。

「ハサミが似合うね」

「……そう、かな？ まあ、ありがと」

ああ、やつちやった。

僕は言わなければよかったと後悔した。針を指に突き刺してしま
った。

ハサミの美しさなんて、僕だけが持っていればよかった。

沈黙の切れるハサミが欲しくなる。きっと響く音はとても綺麗な
んだろうな。

(後書き)

文房具店のハサミもいいですが、やっぱり家庭科で使うハサミがすきです。

玖月です。

恋愛かと思いきや、ハサミラブ！ な男の子。

いや、ハサミラブよりライクかも。しかも音限定。

ふ、と最初の一行だけ思いついていたのを衝動に任せて小説化。そんなお話でした。あとがき長い。

それでは……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2904n/>

サイレントシザー

2010年10月20日18時52分発行